Ｊリーグ『シーズン移行』
～次の30年に向けて～

よっしゃいこ！
J.LEAGUE 30TH ANNIV.

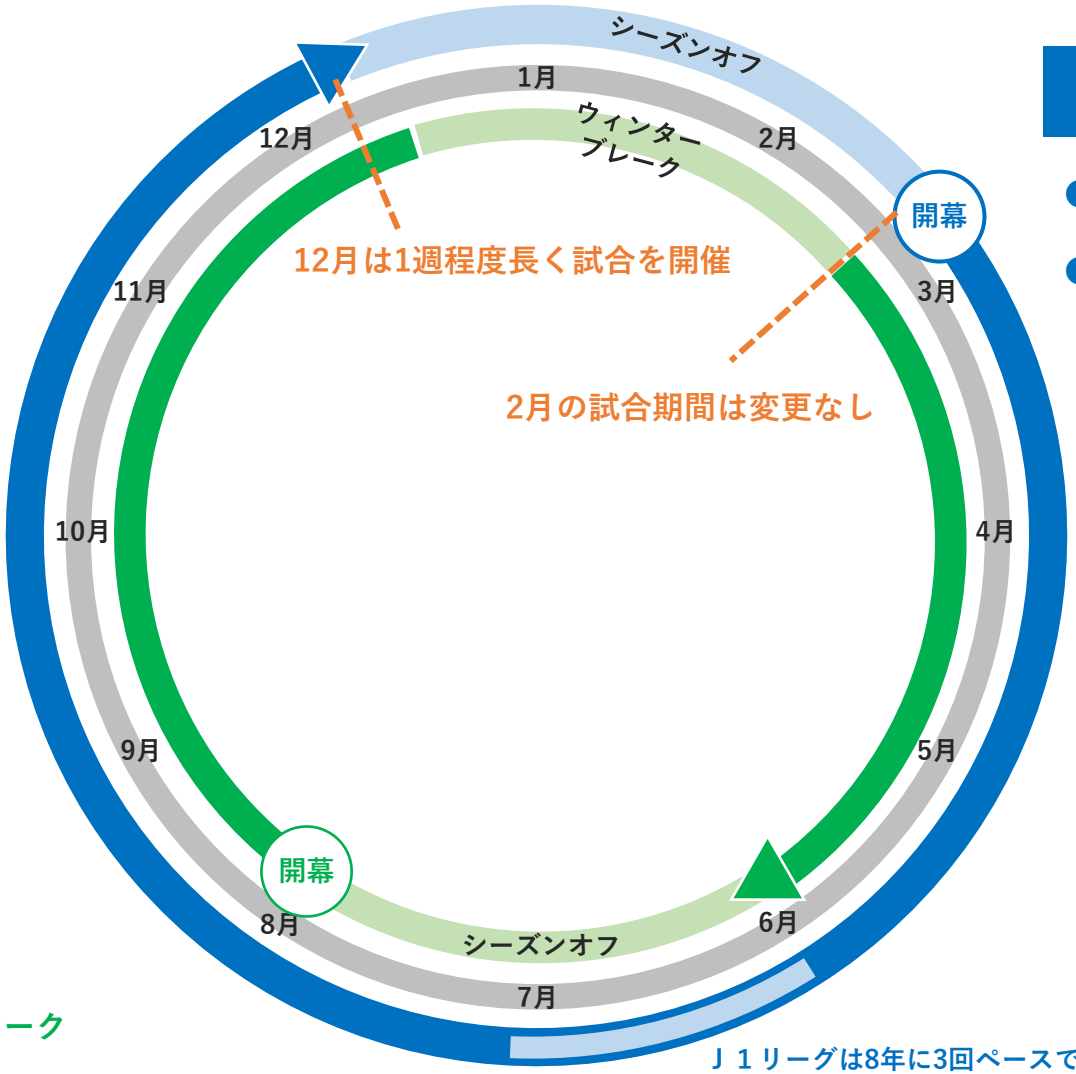
Ｊリーグは本日（12月19日）の理事会において、

2026-27シーズンからシーズン移行を実施することを決め、

残された課題を継続検討していく。

ことを、決議いたしました。

シーズン移行後のリーグ試合日程【概要】



現在のシーズン

- 2月3週頃に開幕
- 12月1週頃に閉幕

シーズン移行後

- 8月1週頃に開幕
- 5月最終頃に閉幕
- 降雪期間はウィンターブレーク
  - ・12月2週頃まで試合を実施
  - ・2月3週頃に試合を再開

Ｊ１リーグは8年に3回ペースで中断
（W杯・アジア杯が開催されるため）

検討のプロセス

2023年

2月 → 3月 → 4月 → 5月 → 6月 → 7月 → 8月 → 9月 → 10月 → 11月 → 12月

検討の下準備

- 整理/検証すべき項目の確認
- フットボール観点でのメリットの初期確認

など

4つの分科会

- フットボール分科会
- 降雪地域分科会
- 事業・マーケティング分科会
- 経営管理分科会

各種担当者会議・分科会

- 各種担当者会議での検討
- スタジアム調整分科会
- 移行期の大会方式分科会
- 意見交換分科会

『目指す姿』の検討

- Ｊリーグの『目指す姿』の検討

『最適なシーズン』の決断

『これまでの検討』と『目指す姿』を踏まえた、
日本サッカーにとって最適なシーズンの検討と決断

検討の背景

1993年 5月 15日
Ｊリーグ開幕

【Ｊリーグ理念】

一、日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進

一、豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与

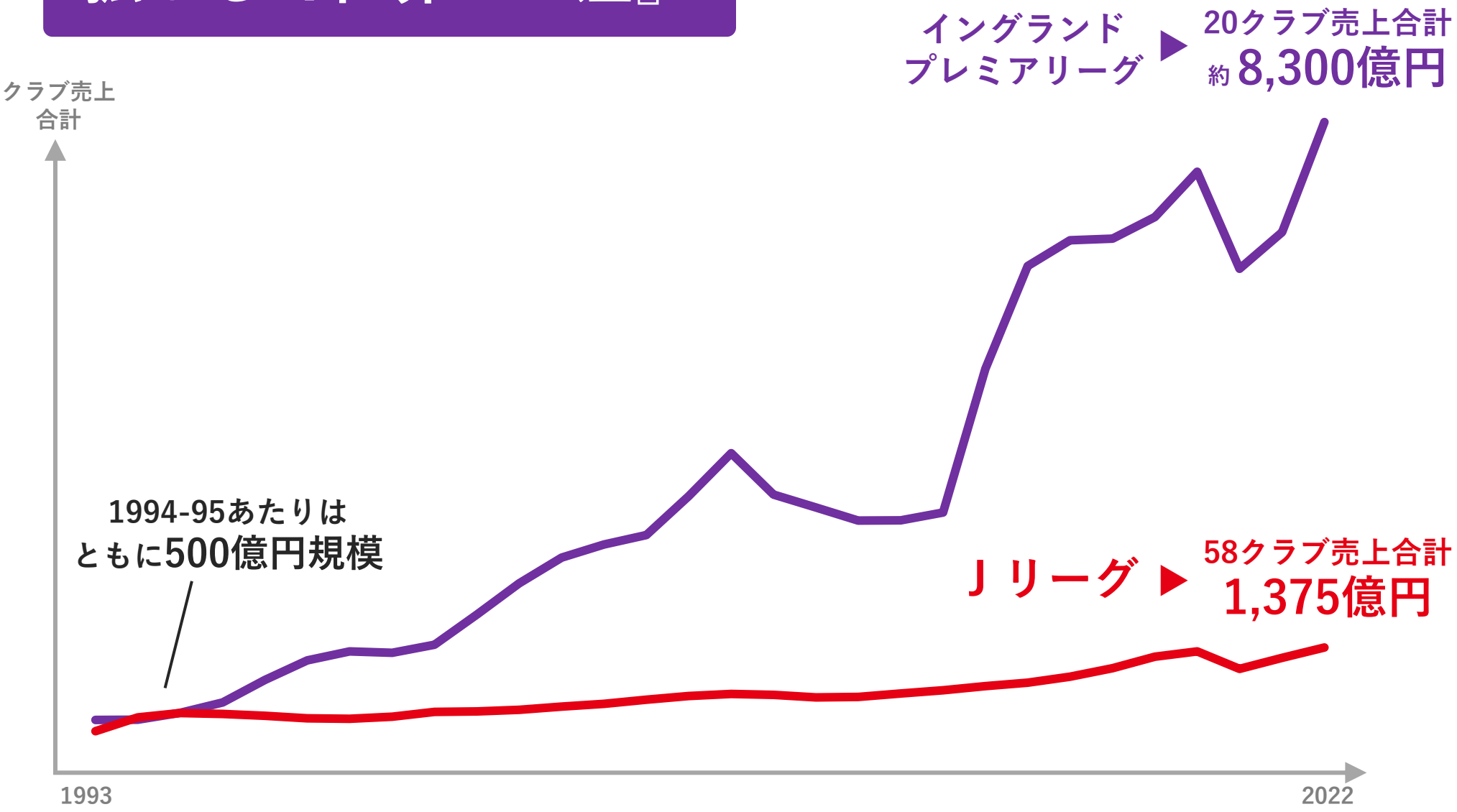
一、国際社会における交流及び親善への貢献

1993年 → 2023年

30年で実現してきたこと

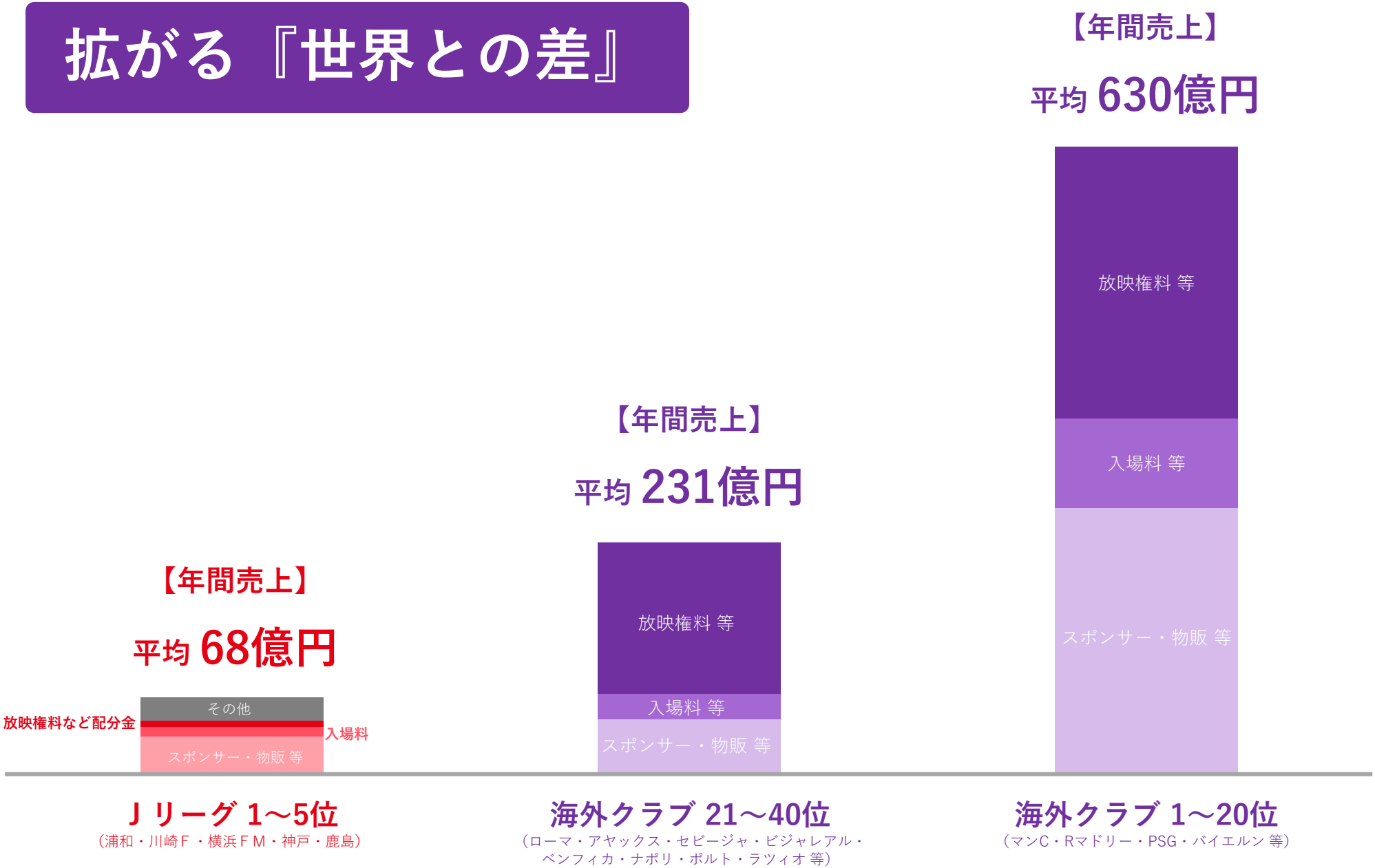
- 10クラブ（8府県）から60クラブ（41都道府県）へ
- 日本代表は世界と戦えるチームに
- ACL優勝
- クラブ売上は1,300億円以上
- Ｊ１リーグの平均入場者は最高で2万人を突破　など

拡がる『世界との差』



＊「Deloitte Football Finance」及びＪリーグ調べ。イングランドプレミアリーグは1992-93シーズン～2021-22シーズン。Ｊリーグは1993シーズン～2022シーズン。
€との換算レートは各シーズンの期中平均。2021-22シーズンは1€＝128.435円で算出。

拡がる『世界との差』



＊Ｊリーグ調べ。海外クラブは2021-22シーズン。Ｊリーグは2022シーズン。海外クラブの売上に移籍による収益は含まれていない。1USD＝120円にて算出。

1993年　2023年　2053年

2023年

Ｊリーグ30周年

次の30年に向けて

1993年　2023年　2053年

次の30年に向けて

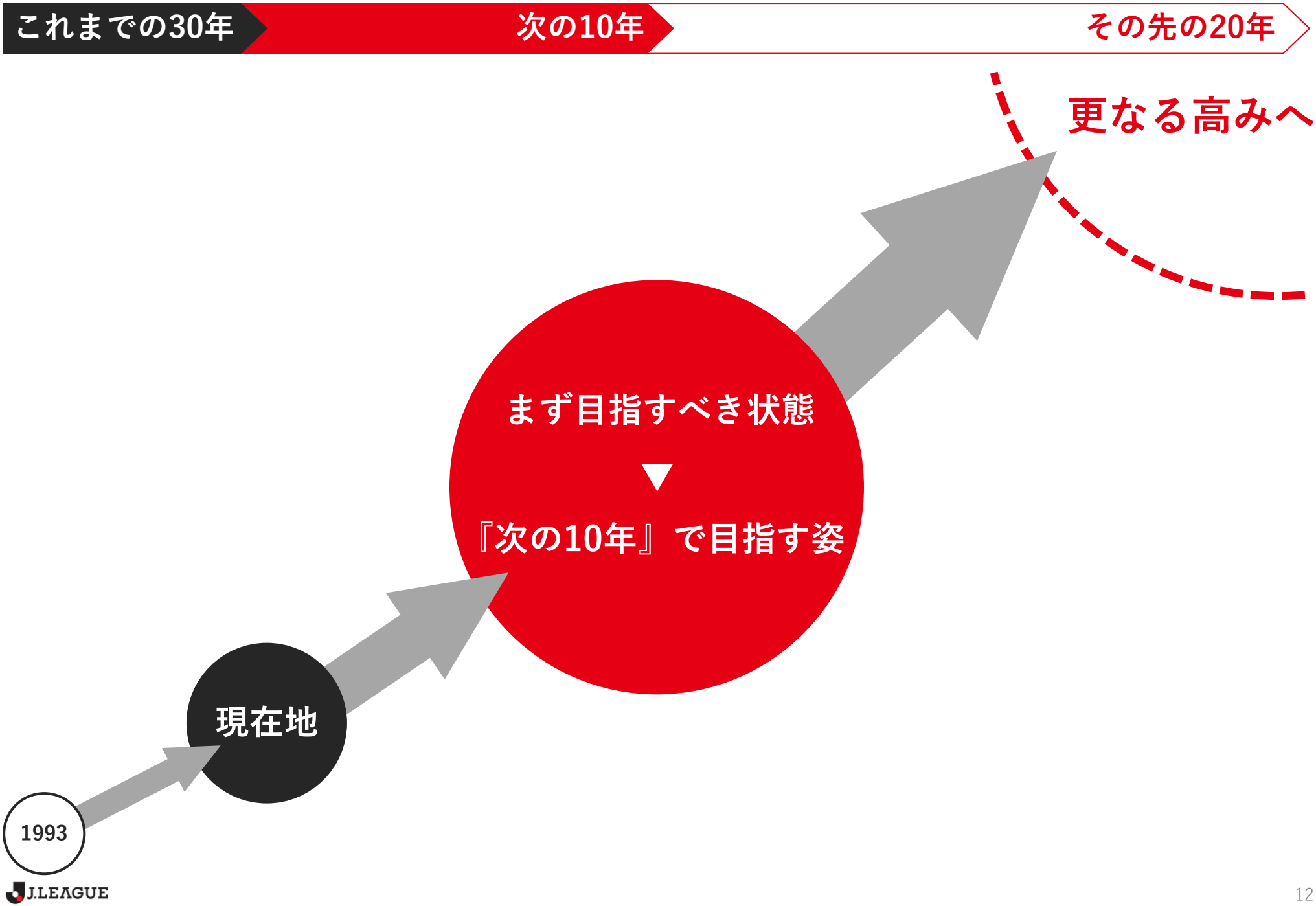
究極の目標は、

Ｊリーグが世界一のリーグになる。

Ｊリーグ選手中心で構成される日本代表がW杯優勝。

一方、現在の『欧州トップとの差』を考え、

“まず目指すべき状態”を具体的に設定する。


これまでの30年
次の10年
その先の20年
更なる高みへ
まず目指すべき状態
▼
『次の10年』で目指す姿
現在地
1993

アジアで勝ち、世界と戦うＪリーグ

- ACLエリート：4年に2回優勝（＝クラブW杯に2クラブが参加）
  出場全3クラブが毎年ベスト8以上
- クラブW杯：ベスト8以上
- トップクラブの売上規模：200億円

＊詳細はまだ検討中の状況です。

欧州リーグとＪリーグ選手による日本代表

- Ｊリーグの中に「世界基準」をつくる
  “Ｊリーグで戦える” ＝ “世界で戦える” ことが示せる環境に

- 日本代表のＪリーグ選手の割合30%（＝8名/26名）
  ＊現在15%（＝4名/26名）程度

＊詳細はまだ検討中の状況です。

全Ｊクラブの売上を1.5-2倍へ

- トップラインを引き上げながら、
  それぞれのクラブがそれぞれの地域で輝く存在へ

【2倍の場合】 ＊2022年度経営情報との比較。億単位未満は四捨五入。

Ｊ１平均：49億→97億　／　Ｊ２平均：17億→35億　／　Ｊ３平均：7億→13億

＊詳細はまだ検討中の状況です。

次の10年で目指す姿【まとめ】

アジアで勝ち、世界と戦うＪリーグ

欧州リーグとＪリーグ選手による日本代表

全Ｊクラブの売上を1.5-2倍へ

＊詳細はまだ検討中の状況です。

『次の10年で目指す姿』を実現するために

世界と戦う
フットボール

海外からの
収益獲得

競争環境の
構築

各地域での
圧倒的な露出

適切に
スポーツを
楽しめる
環境づくり

トップ層が、ナショナル（グローバル）コンテンツとして輝く

60クラブが、それぞれの地域で輝く

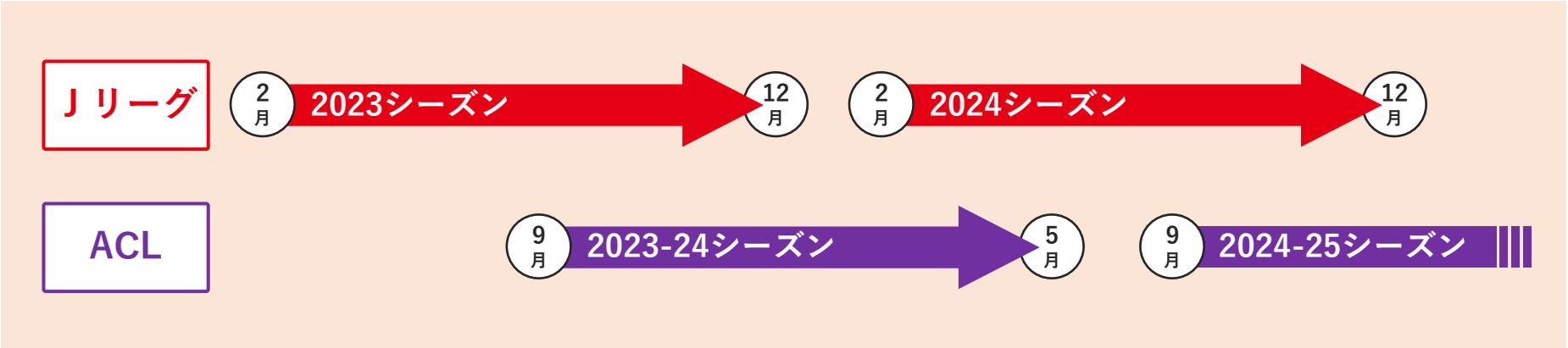
＊詳細はまだ検討中の状況です。

現在のＪリーグの環境

解決したい問題 1

AFCチャンピオンズリーグ（ACL）シーズンとのズレ

- ACLが2023年からシーズン移行を実施。
- Ｊリーグのシーズンとズレたことで、Ｊクラブはシーズンをまたいで ACLを戦うことに。



★クラブW杯の拡大

2025年から、クラブW杯が32クラブ（4年ごとに開催）の大会へ拡大。

欧州からも12クラブが参加し、世界トップクラブとＪクラブが本気で戦う場が誕生。

このクラブW杯のアジアからの出場権は、ACL優勝やランキング上位の4クラブが得る。

解決したい問題 2

欧州シーズンとのズレによるシーズン中の海外移籍

● 欧州シーズンの開幕前（夏）が、世界の移籍マーケットが最も大きいタイミングとなる。

夏（＝Ｊのシーズン中）の移籍金総額	1兆300億円
冬（＝Ｊの開幕前）の移籍金総額	2,200億円

● その『夏』がＪはシーズンの真っ最中であるが、多くの有力選手が海外移籍している。

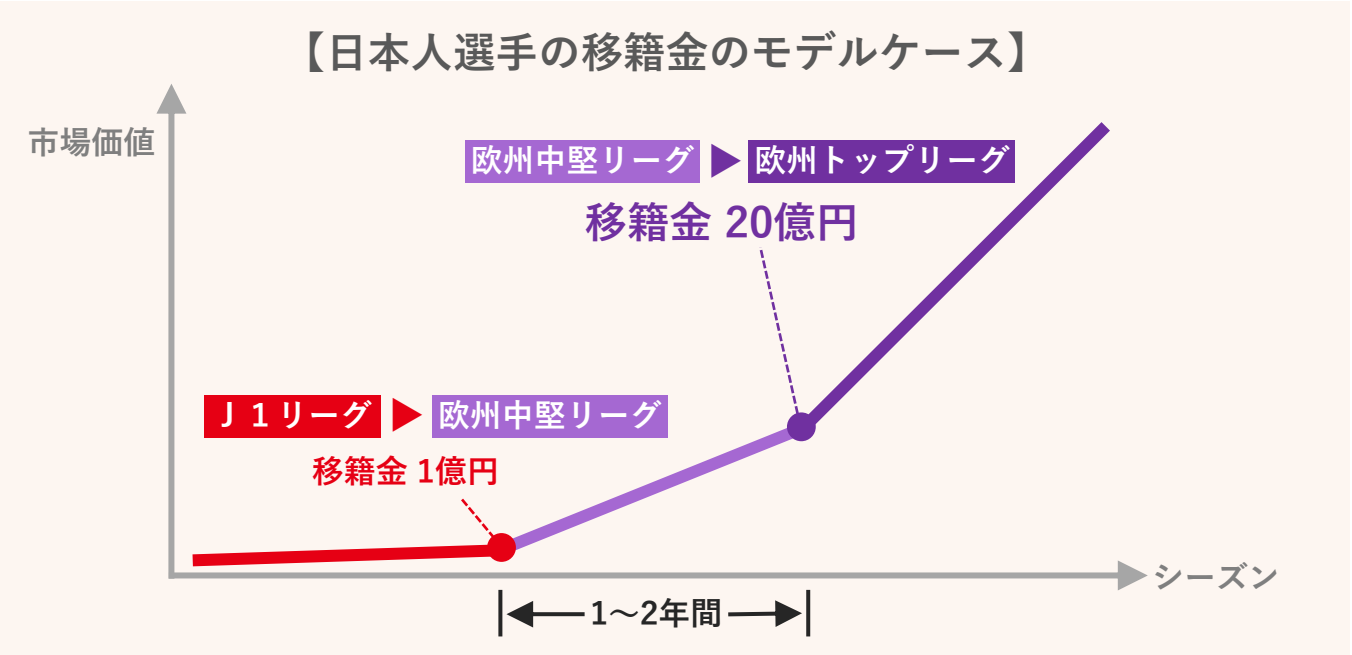
2023			2022			2021			2020			2019			2018			2017		
金子 拓郎	札幌	100%	上田 綺世(A)	鹿島	97%	古橋 亨梧(A)	神戸	100%	室屋 成(A)	FC東京	94%	ｼｭﾐｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ(A)	仙台	100%	植田 直通(A)	鹿島	100%	鎌田大地	鳥栖	100%
町野 修斗(A)	湘南	93%	小川 諒也(A)	FC東京	86%	田中 碧(OP)	川崎F	94%	遠藤 渓太(U-23)	横浜FM	63%	北川 航也(A)	清水	100%	遠藤 航(A)	浦和	100%	関根 貴大	浦和	93%
伊藤 涼太郎	新潟	89%	新井 瑞希	東京V (J2)	72%	川辺 駿(A)	広島	93%	藤本 寛也	東京V (J2)	54%	安西 幸輝(A)	鹿島	90%	西村 拓真	仙台	79%	中島 翔哉	FC東京	53%
小川 航基	横浜FC	75%	田中 聡(U-21)	湘南	67%	ｵﾅｲｳ 阿道(A)	横浜FM	77%	橋本 拳人(A)	FC東京	52%	天野 純	横浜FM	90%	澤井 直人	東京V	5%	堂安 律(U-20)	G大阪	44%
安部 柊斗	FC東京	65%	奥抜 侃志	大宮 (J2)	42%	伊藤 洋輝	磐田	72%	鈴木 武蔵(A)	札幌	35%	小池 龍太	柏 (J2)	87%	中坂 勇哉	神戸	0%	松井 大輔	磐田	11%
常本 佳吾	鹿島	53%	橋本 拳人(A)	神戸	41%	林 大地(OP)	鳥栖	71%				前田 大然(A)	松本	84%				坂井 大将(U-20)	大分 (J2)	2%
谷 晃生(A)	G大阪	48%				三笘 薫(OP)	川崎F	64%				久保 建英(A)	FC東京	81%						
松田 隼風(U-20)	水戸 (J2)	36%										三好 康児(A)	川崎	55%						
藤田 譲瑠チマ(U-22)	横浜FM	33%										安部 裕葵(A)	鹿島	43%						
山本 理仁(U-22)	G大阪	16%										中村 敬斗(U-20)	G大阪	29%						
鈴木 彩艧(U-22)	浦和	0%										食野 亮太郎(U-22)	G大阪	23%						
												菅原 由勢(U-20)	名古屋	0%						
												高橋 壮也	広島	0%						
												伊藤遼哉	鳥栖	0%						

＊移籍金総額：FIFA調べ。1USD＝140円にて算出し概算金額を記載。
＊夏の海外移籍：：Ｊリーグ調べ及びWyscout data, powered by Hudl。黄色は日本代表（アンダー世代を含む）選手。上記で示している割合は、「移籍前の当該Ｊクラブでの出場時間の割合」を示している。
・シーズン前の欧州移籍の場合：直前のシーズンを通しての出場時間の割合　・シーズン中の欧州移籍の場合：当該シーズンの前半部分での出場時間の割合

解決したい問題 3

海外からの移籍金売上

- 現在の日本人選手は、欧州の中堅リーグを経由して、移籍金が大幅に増加していく傾向。



- 海外では移籍金売上が10億円以上のクラブが毎年100クラブを超える。
  一方、Ｊリーグは、全クラブ合計の海外移籍金売上が15～25億円/年 程度という状況。

＊上記のモデルケースは、transfermarktでの複数の日本人選手のデータを元に、Ｊリーグ独自でモデルを作成。　＊クラブの移籍金売上はＪリーグ調べ。

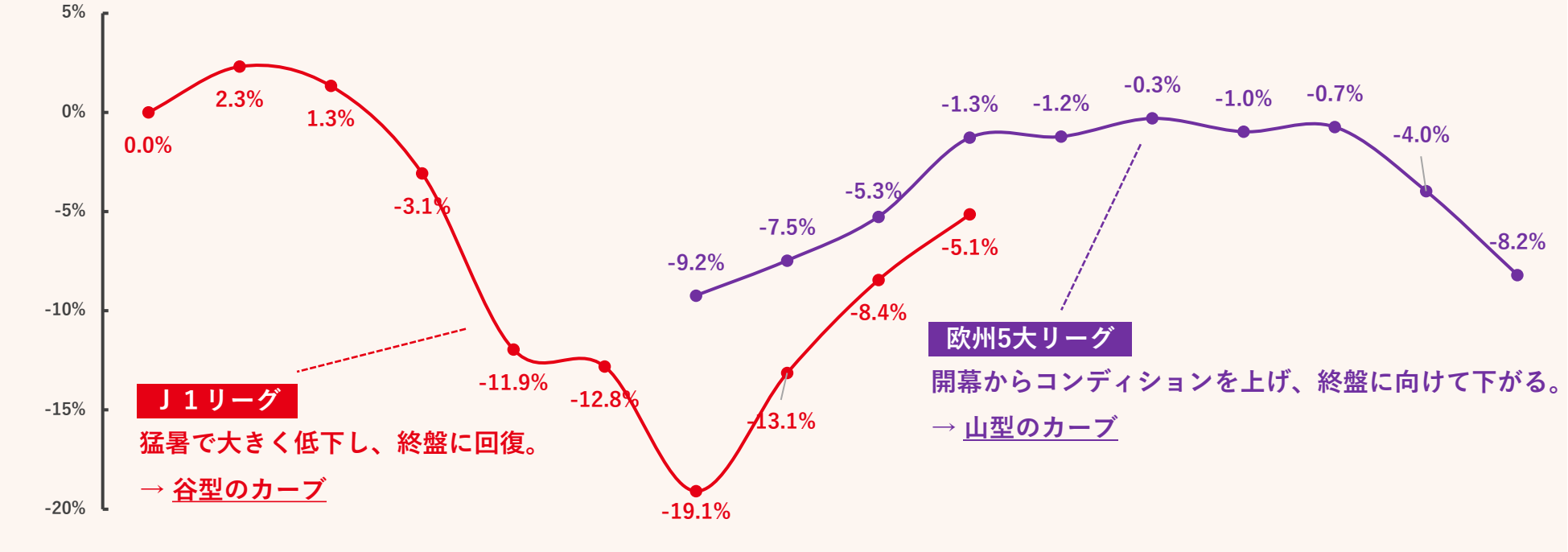
解決したい問題 4

猛暑でのパフォーマンス低下

● 猛暑（6-9月）において選手の走行距離やハイインテンシティ（高強度）走行距離が顕著に低下。

【ハイインテンシティ走行距離の比較】　＊「Ｊ１リーグの２月を0」とした際の割合比較

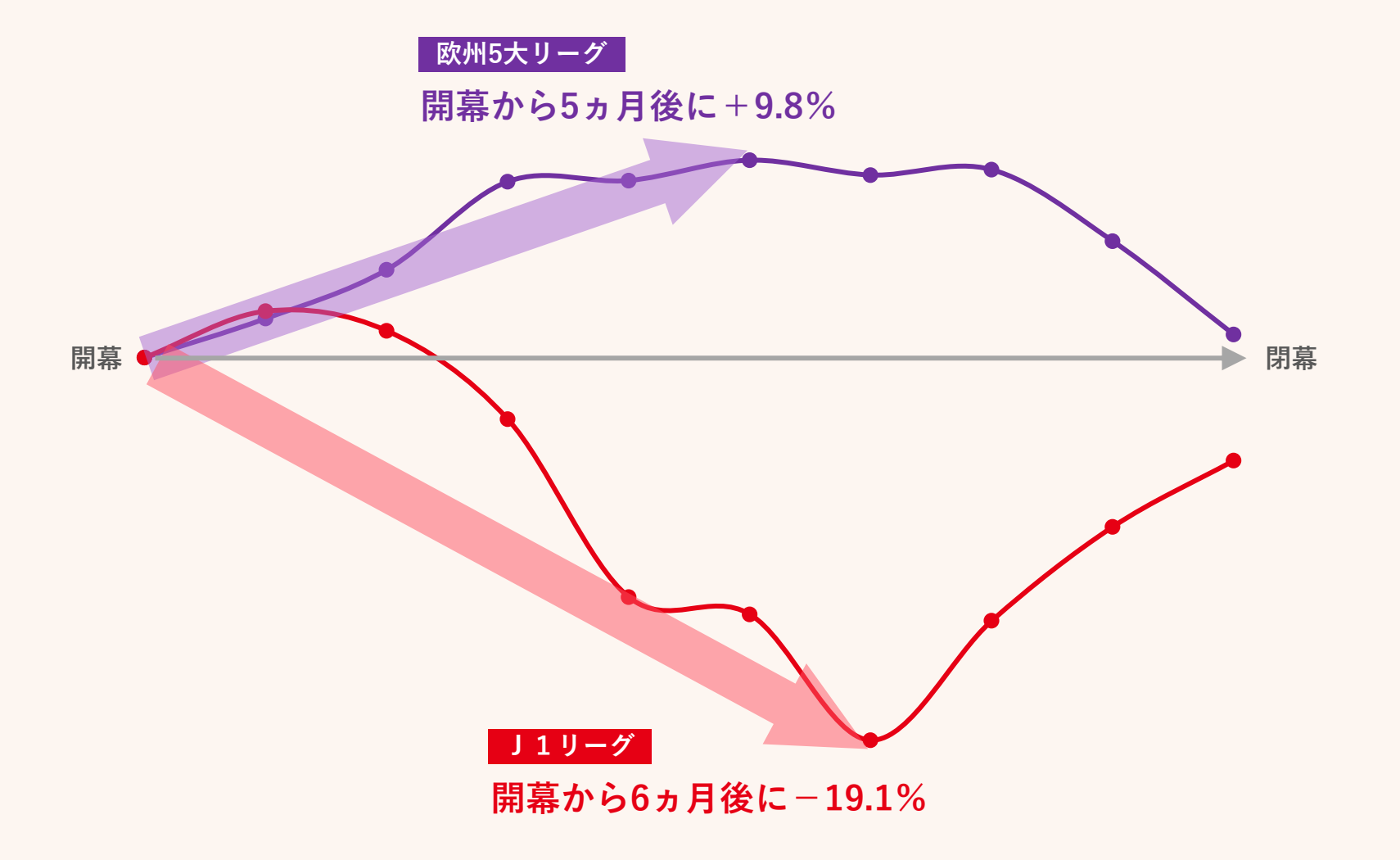
(km)	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
Ｊ１	0.74	0.76	0.75	0.72	0.65	0.64	0.60	0.64	0.68	0.70						
欧州5大							0.67	0.68	0.70	0.73	0.73	0.74	0.73	0.73	0.71	0.68



＊ハイインテンシティ走行距離：1試合におけるフィールドプレーヤー1名当たりのハイインテンシティ（20km/h以上）での平均走行距離。対象は各試合において60分以上出場している選手。
＊SkillCornerのデータ。欧州5大リーグ：2021-22シーズンのデータで、5大リーグ（イングランド/スペイン/ドイツ/イタリア/フランス）の平均値。Ｊ１リーグ：2022シーズンのデータ。

解決したい問題 4

【ハイインテンシティ走行距離の増減割合の比較】　＊それぞれ「開幕月を0」とした際の割合比較



＊ハイインテンシティ走行距離：1試合におけるフィールドプレーヤー1名当たりのハイインテンシティ（20km/h以上）での平均走行距離。対象は各試合において60分以上出場している選手。
＊SkillCornerのデータ。欧州5大リーグ：2021-22シーズンのデータで、5大リーグ（イングランド/スペイン/ドイツ/イタリア/フランス）の平均値。Ｊ１リーグ：2022シーズンのデータ。

シーズン移行によって実現させること

シーズン移行によって
実現させること

▼

Ｊリーグを世界と戦う舞台へ

Ｊリーグを世界と戦う舞台へ

高強度のプレーを『谷型カーブ』から『山型カーブ』へ変化させる。

Ｊリーグはこれまで『谷型のカーブ』で30年を過ごしてきた。

『谷型のカーブ』はコンディションが落ちていくことを「耐える」シーズンを過ごす。

一方、『山型のカーブ』は「アスリートとしての高みに挑戦していく」シーズンを過ごす。

この違いを何シーズンも積み重ねることによって、アスリートとしての到達点は変わる。

Ｊリーグでプレーすれば世界基準のプレーができる。

Ｊリーグでプレーすれば日本代表として世界と戦える。

Ｊリーグでプレーを続ければアスリートとして成長ができる。

Ｊリーグを世界と戦う舞台とすることで、Ｊリーグ全体の価値の転換を実現させる。

Ｊリーグを世界と戦う舞台へ

＋ ACLシーズンとの一致

- ACLで勝ち、クラブW杯で世界と戦う
- 国際大会での賞金を獲得

＋ 欧州の移籍マーケットとの一致

- 海外移籍の際の移籍金収益の拡大
- Ｊシーズン中の有力選手の離脱を防ぐ
- 欧州からの選手・監督の獲得促進

＋ 猛暑での試合数減少

- 6-7月のオフ
- シーズンオフから準備をして迎える8月

Ｊリーグを世界と戦う舞台へ

ACLシーズンとの一致

欧州の移籍マーケットとの一致

猛暑での試合数減少

選手が良いプレーをできる環境

フットボール水準向上

ACL優勝・クラブW杯出場

代表選手の増加

移籍金収益拡大

国際大会の賞金獲得

放映権などリーグ売上の拡大

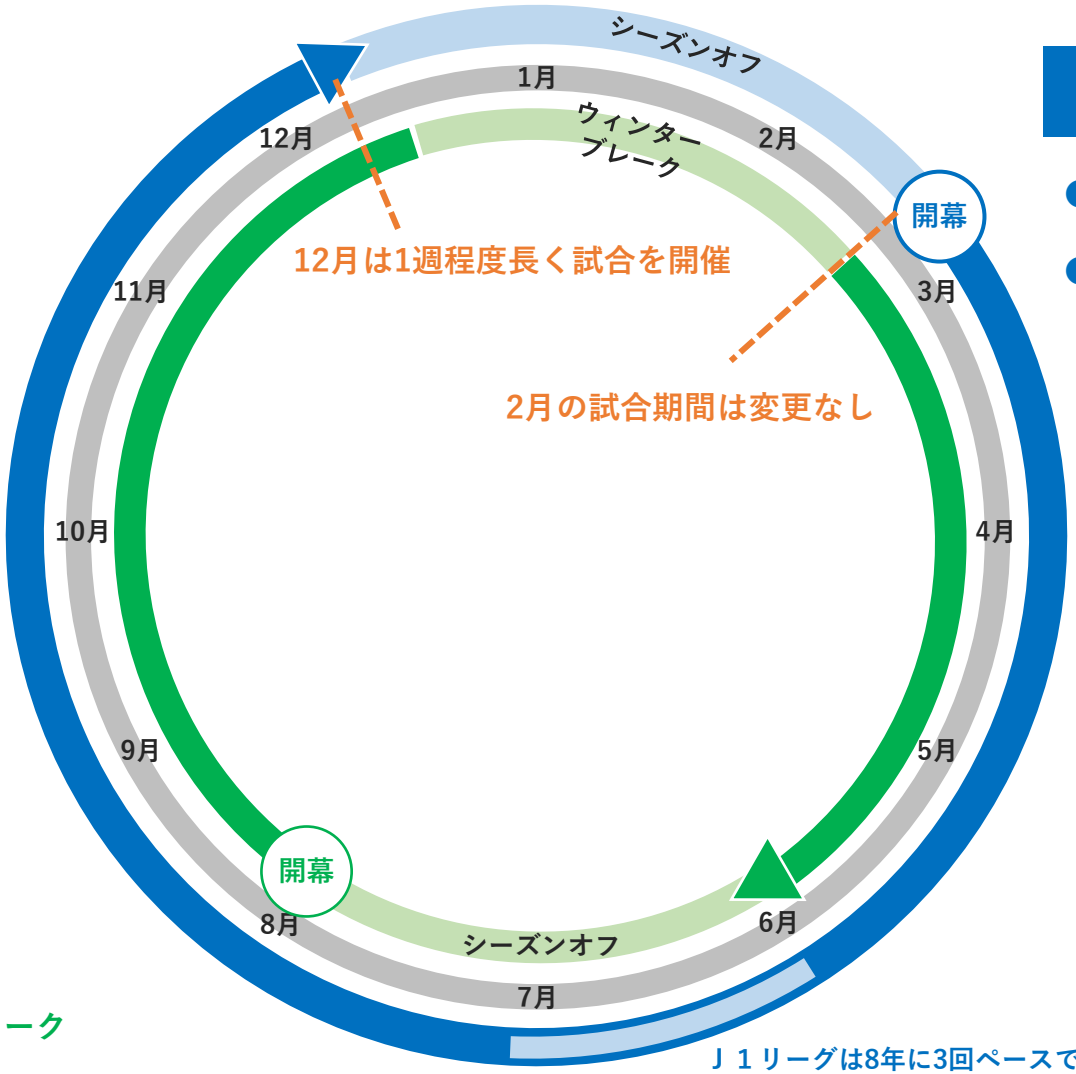
ファン・サポーターの熱狂

パートナー・メディアへの価値提供

地域への貢献

シーズン移行の概要

1 試合日程（リーグ戦）



現在のシーズン

- 2月3週頃に開幕
- 12月1週頃に閉幕

シーズン移行後

- 8月1週頃に開幕
- 5月最終頃に閉幕
- 降雪期間はウィンターブレーク
  - ・12月2週頃まで試合を実施
  - ・2月3週頃に試合を再開

Ｊ１リーグは8年に3回ペースで中断
（W杯・アジア杯が開催されるため）

2 降雪地域クラブのアウェイ連続（リーグ戦）

	12月1週	12月2週	ウィンターブレーク	2月3週	2月4週	3月1週	3月2週	3月3週	3月4週
札幌		アウェイ		アウェイ	アウェイ				
新潟		アウェイ		アウェイ	アウェイ	アウェイ			
仙台		アウェイ		アウェイ	アウェイ				
秋田		アウェイ		アウェイ	アウェイ	アウェイ			
山形		アウェイ		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ		
金沢		アウェイ		アウェイ	アウェイ				
八戸				アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ		
岩手		アウェイ		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	
福島				アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	
松本		アウェイ		アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ	
長野				アウェイ	アウェイ				
富山				アウェイ	アウェイ	アウェイ	アウェイ		
鳥取				アウェイ	アウェイ				

＊試合日程シミュレーションVer.2（7月）の際の、クラブの自己申告に基づいて作成

シーズン移行しない場合（＝12月2週に開催なし）と比較し、

<u>ウィンターブレーク前に『アウェイが+1連続』</u>となるクラブが発生。

3 降雪地域等のクラブへの支援

支援（1）：キャンプ費用増額分の支援

- シーズンオフ（夏）/ ウィンターブレークでのキャンプ費用
- シーズン中に『ホームタウン外でキャンプを行いながら試合をする際』のキャンプ費用

支援（2）：施設整備への支援

- スポーツが行えるエアドーム
- 降雪エリアのスタジアム対応
- 降雪エリア以外の暑熱対応など

© DUOL

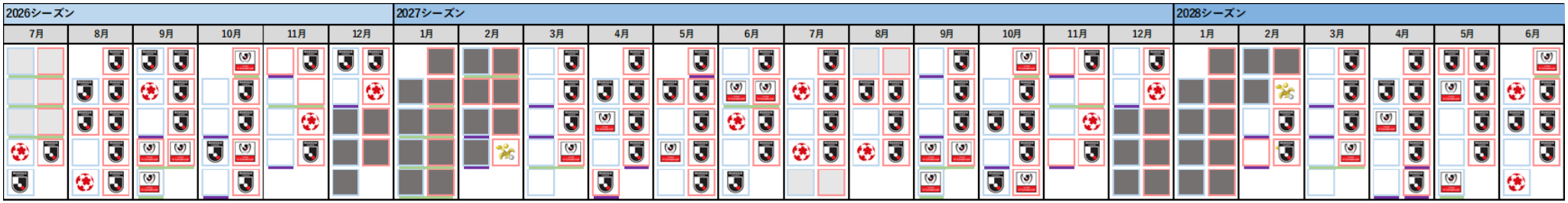
参考 試合日程案（Ｊ１）

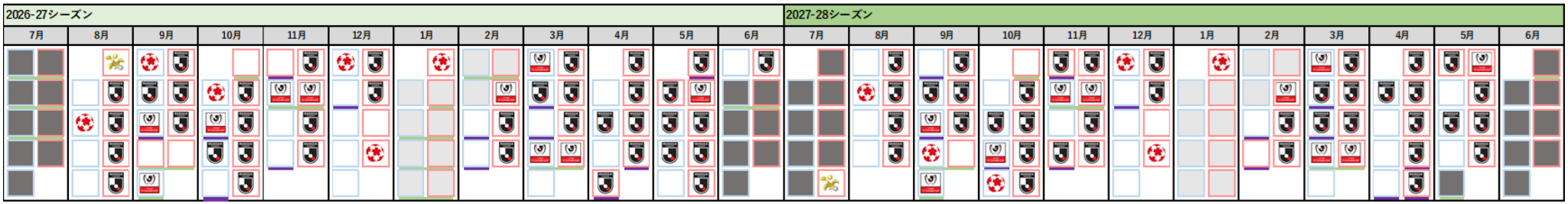
【試合日程案（現状のタタキ）について】
●今後、まだ様々な詳細を詰めていく必要がある状況のものです。
●国際試合の日程は、未確定のものを想定している状態を含みます。
●モデル：Ｊ１リーグ 38節 / YLC 1回戦～決勝 / 天皇杯 2回戦～決勝 / ACL不参加

平日　土日祝　ACL E　IW　オフ　中断

＊ACL E：ACLエリート　＊IW：インターナショナルウインドー

現在のシーズン（比較用）





シーズン移行後

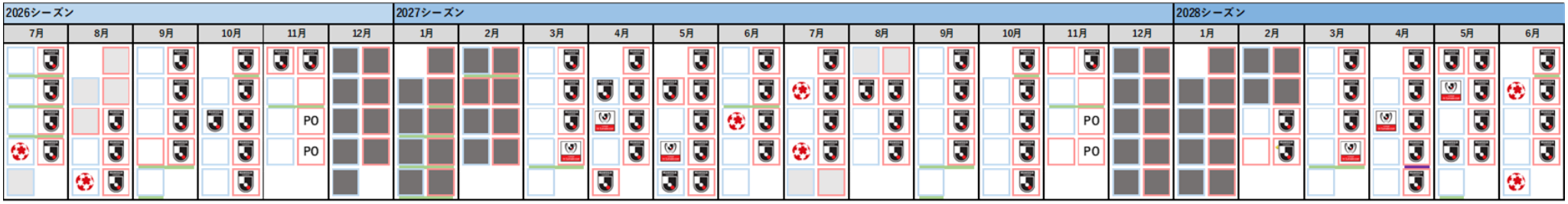
参考 試合日程案（Ｊ２）

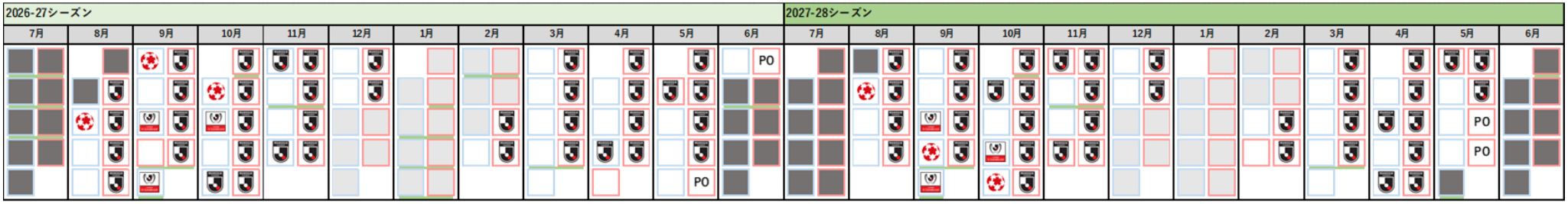
【試合日程案（現状のタタキ）について】
●今後、まだ様々な詳細を詰めていく必要がある状況のものです。
●国際試合の日程は、未確定のものを想定している状態を含みます。
●モデル：Ｊ２リーグ 38節 / YLC 1回戦～3回戦 / 天皇杯 2回戦～R16 / ACL不参加

平日　土日祝　IW　オフ　中断

＊IW：インターナショナルウインドー

現在のシーズン（比較用）





シーズン移行後

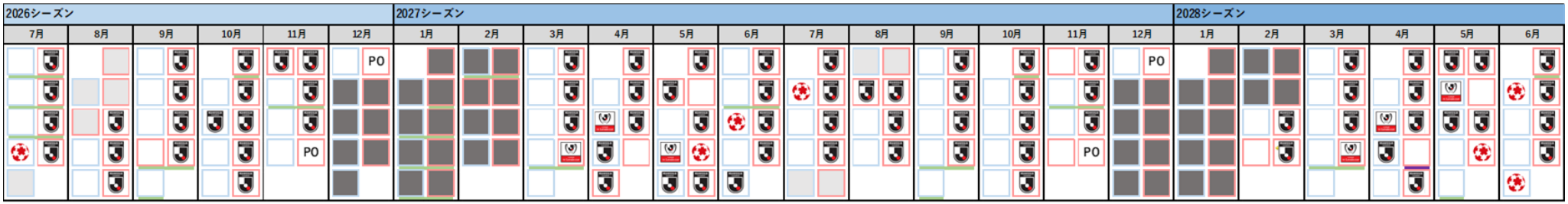
参考 試合日程案（Ｊ３）

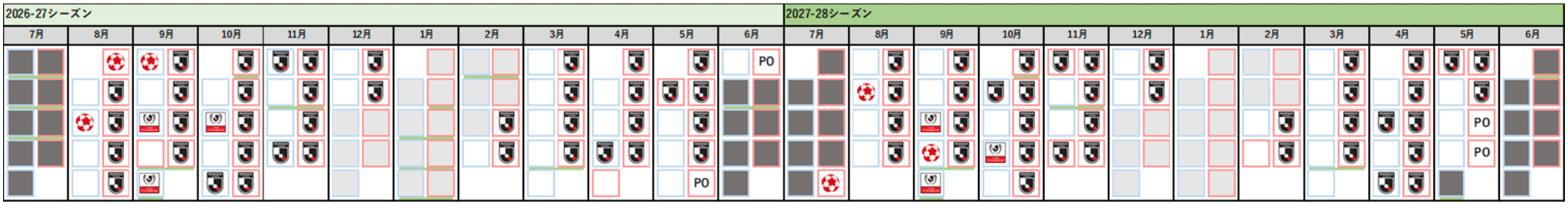
【試合日程案（現状のタタキ）について】
●今後、まだ様々な詳細を詰めていく必要がある状況のものです。
●国際試合の日程は、未確定のものを想定している状態を含みます。
●モデル：Ｊ３リーグ 38節 / YLC 1回戦～3回戦 / 天皇杯 1回戦～3回戦 / ACL不参加

平日　土日祝　IW　オフ　中断

＊IW：インターナショナルウインドー

現在のシーズン（比較用）





シーズン移行後

まとめ

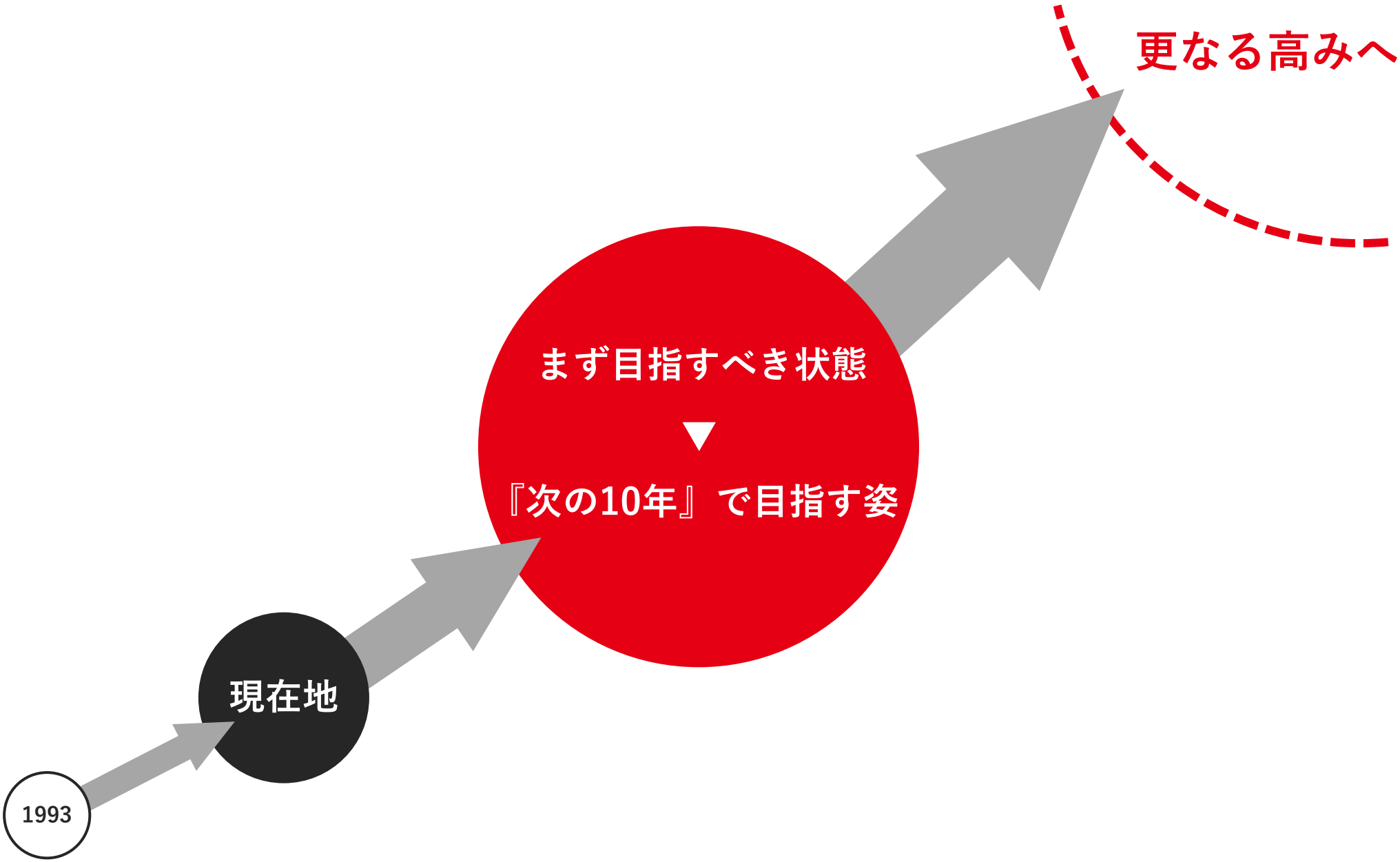
Ｊリーグは本日（12月19日）の理事会において、

2026-27シーズンからシーズン移行を実施することを決め、

残された課題を継続検討していく。

ことを、決議いたしました。

これまでの30年 次の10年 その先の20年



次の10年で目指す姿

アジアで勝ち、世界と戦うＪリーグ

欧州リーグとＪリーグ選手による日本代表

全Ｊクラブの売上を1.5-2倍へ

＊詳細はまだ検討中の状況です。

シーズン移行によって実現させること

Ｊリーグを世界と戦う舞台へ

ACLシーズンとの一致

欧州の移籍マーケットとの一致

猛暑での試合数減少

選手が良いプレーをできる環境

フットボール水準向上

ACL優勝・クラブW杯出場

代表選手の増加

移籍金収益拡大

国際大会の賞金獲得

放映権などリーグ売上の拡大

ファン・サポーターの熱狂

パートナー・メディアへの価値提供

地域への貢献

Ｊリーグ理念

一、日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進

一、豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与

一、国際社会における交流及び親善への貢献

よっしゃいこ！

J.LEAGUE 30TH ANNIV.